

東大和市立第二中学校（2年目）

【校長】 大島 清和
【生徒数】 281名
【学級数】 9学級



次の取組へ

【課題・改善】

- 目標に掲げていた、意識調査での「どんな自分の目標でも失敗を恐れないで挑戦していますか」への肯定的回答80%以上は達成できなかった。日常生活の中で、「挑戦する」という事を様々な場面で教員側が生徒に対して意識させることが不十分であった。
- 生徒は年間を通じて、様々な活動に意欲的に取り組んでいると感じる。生徒自身の自己肯定感をあげ、今まで以上に自信をもって何事にも意欲的に取り組めるような活動を実践していく。
- 2年間の取組をまとめることによって、改めて、日々の教育活動の充実が生徒の成長に繋がることを学んだ。

目標

運動やスポーツを「支える」・「知る」ことへの肯定解答 80%以上
「どんな自分の目標でも失敗を恐れないで挑戦していますか」への肯定的回答 80%以上

【成果】

- 体力測定の結果を踏まえ、生徒が自己の体力について知り、授業の中で体力向上につなげようとした。
- フライングディスク・アルティメット競技を行うことによって、瞬発力、持久力が身についた生徒が多かった。
- 立川ダイス（バスケットボール）の試合運営ボランティアで、支える側の大変さとやりがいを体験することができた。
- 年間を通じて、保健委員会が校内活動として、生徒の健康を保持増進するための活動を行ったことにより、生徒の健康への意識が高まった。
- 柔道ロンドンオリンピック銀メダリスト（中矢力さん）の授業では、1年生が初めての柔道を意欲的に楽しみながら受け身に挑戦していた。

【実態・課題】

- 6月に行った意識調査の結果
「保健体育の授業は楽しいと思う」に肯定的に答えた生徒は87%である。
「運動やスポーツは好きですか」に肯定的に答えた生徒は84%である。
「運動やスポーツを『支える』『知る』ことが好きですか」に肯定的に答えた生徒はそれぞれ78%、79%である。
「自分の目標に失敗を恐れないで挑戦していますか」という設問に肯定的に回答した生徒は、77%である。

【取組】

- 授業（体育科・保健体育科）での取組
・一人1台端末の活用（体力測定の結果の活用、自身の動作の確認や課題解決に繋げる）
- 外部との連携
・フライングディスク・アルティメット競技の講師を招聘し、授業を計画
・プロバスケットボールチーム（立川ダイス）と連携し、試合の観戦・サポート業務を計画
・メダリストによる保健体育授業（柔道）の計画
・ゲストティーチャーを招聘し、家庭科で「食と健康のつながりについて」の授業を計画・実施。
- 校内活動・・・保健委員会活動の一環
熱中症予防・感染症防止
手洗いキャンペーン

【取組（詳細）】

◎埼玉県東松山特別支援学校 特別非常勤講師
自然栽培農家・断食インストラクター
内木雄飛さんの授業（食に関すること）



◎立川ダイスチーム
ホームゲームボランティア活動（10月）



◎フライングディスク・アルティメットの授業（11月）



◎「主任栄養教諭篠原美穂先生」による講話（12月）



◎オリンピック柔道銀メダリスト（中矢力さん）による出前授業



◎校内活動の様子
手洗いキャンペーン



◎2025デフリンピック応援・観戦（京王アリーナ東京）

